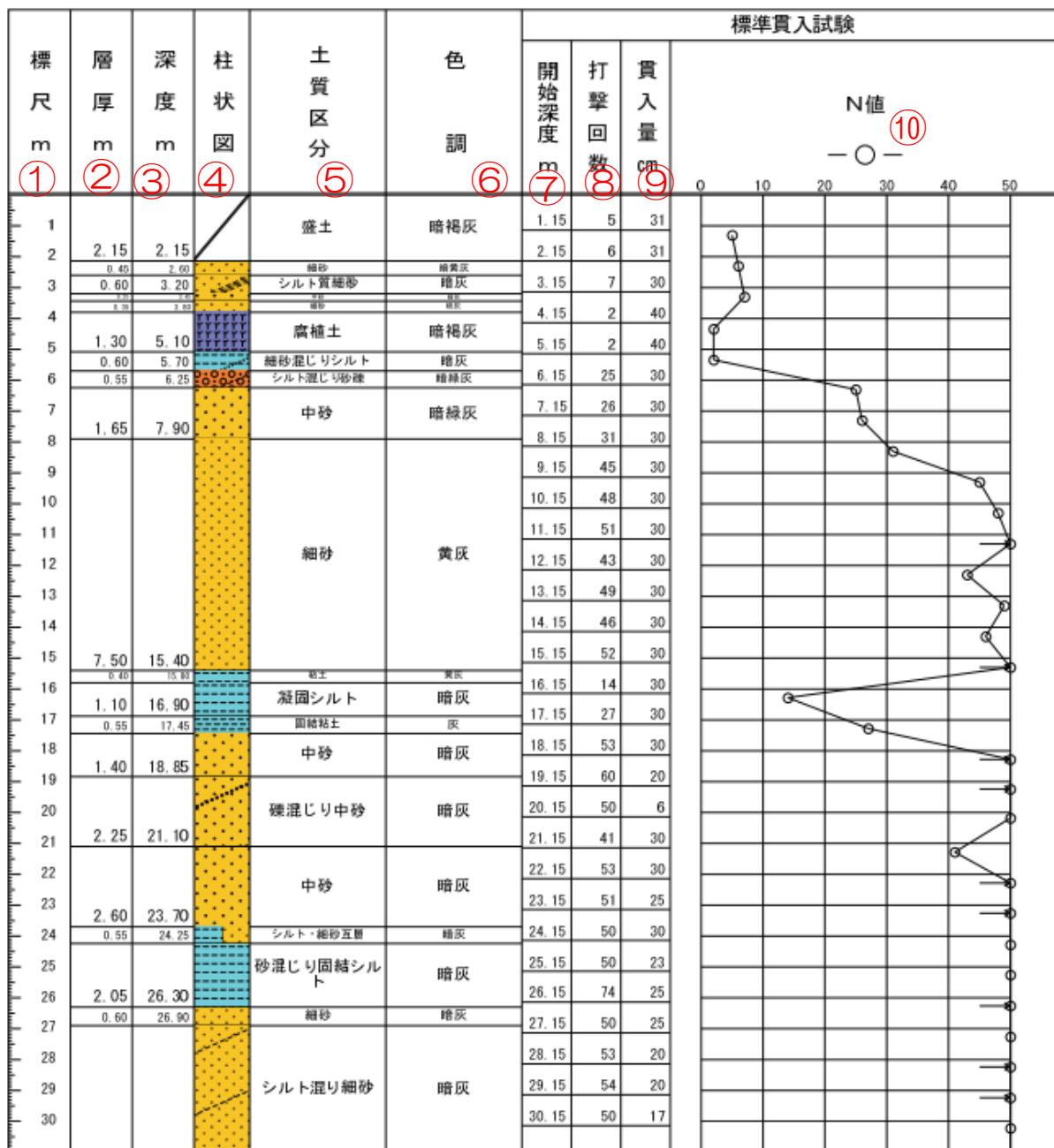


中央区地盤情報システム

○柱状図の見方



①標尺(m)：基準となる長さを 1m 単位の主目盛と 10cm 単位の補助目盛で表示しています。

②層厚(m)：各層の厚さを示しています。

③深度(m)：地表面からの深さを表しています。

④柱状図：土の種類を記号で表現したものです。

⑤土質区分：土の種類を表現したものです。

⑥色調：調査が行われた時の土の色を表現したものです。

⑦開始深度(m)：N 値の測定を開始した深さを表しています。

⑧打撃回数：N 値と呼ばれるもので、63.5kg のおもりを 75cm の高さから落下させた時の回数で表します。一般に地盤の強さを表す指標とされるものです。

⑨貫入量(cm)：⑧の打撃回数で貫入した深さを表すものです。通常、試験は 30cm を貫入させるまで行われます。ただし、地盤によって、数回で 30cm 以上貫入する場合もあれば、50 回以上の打撃回数でも 30cm 以上貫入しない場合もあります。

⑩N 値：打撃回数をグラフ化したものです。最大は 50 回で、50 回を超えるものには→が表示されます。

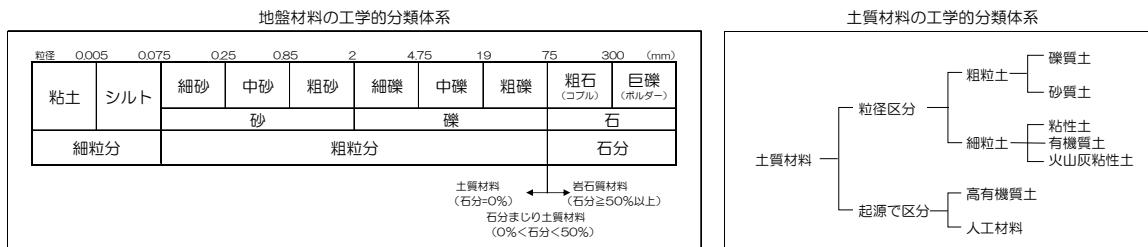
中央区地盤情報システム

土質の分類と解説

土質の分類は粒径の大きさによって分類されます。

粒径が75mm以上を岩石といい、75mm以下を土としています。

土は粒径の大きいものから、礫、砂、シルト、粘土に分類されます。



地盤工学会 土質試験の方法と解説より

土質分類記号	
礫質土	高有機質土（腐植土）
礫	泥炭
粗礫	黒泥
中礫	硬岩
細礫	中硬岩
砂礫	空洞
砂質土	軟岩、風化岩
砂	礫質粘土
粗砂	玉石
中砂	固結粘土
細砂	浮石（軽石）
砂	礫岩
粗砂	シラス
中砂	スコリア
細砂	火山灰
粘性土	ローム
シルト	シルト岩
粘土	頁岩
有機質土	黒ボク
火山灰質粘性土	粘板岩
	マサ
	底棄物
	改良土

補助記号 1		補助記号 2	
	玉石混じり		礫質
	礫混じり		砂質
	砂混じり		シルト質
	シルト混じり		粘土質
	粘土混じり		有機質
	有機質土混じり		火山灰質
	火山灰混じり		
	貝殻混じり		

N 値と土質による地盤判定の目安

	N値	硬軟	注意事項	
			粘性土	砂質土
粘性土	0~4	軟らかい	注意を要する軟弱地盤であり精密な土質調査を行う必要がある。	
	5~14	中位～硬い	安定については大体問題ないが、沈下の可能性がある。	
	15以上	非常に硬い	安定及び沈下の対象としなくて良いが、中小構造物の基礎地盤としてはN値20以上が望ましい。	
砂質土	0~10	ゆるい	沈下は短期間に終わるが、土構造物の設計に当たっては考慮する必要あり。地震時に液状化の恐れがある。	
	10~30	中位～硬い	中小構造物の基礎地盤となりうる場合もあるが、一般に不十分である。	
	30以上	密	大構造物の基礎としてはN値50以上（非常に密）が望ましい。	

道路土工要綱より（平成 21 年度）

【問い合わせ先】：建築課指導審査係 電話 03-3546-5456